

押し本!

新たな出会いを見つけてみませんか?
中学生の時に読んでほしい本を集めました。
紹介している本は、宗像市民図書館にそろえています。

「タイトル」	著者名	出版社	出版年	背ラベル
表紙				
あらすじ				

★…読みやすい
★★…中学生にピッタリ
★★★…チャレンジ

日
本
文
学

「天使のにもつ」



いとうみく／著
童心社 2019年

913
イ

中2の風汰が職場体験に選んだのはエンジェル保育園。「子どもと遊んでりゃいいってこと? ありかも」そんな風汰だったが、元気な子どもたちに振り回される。

★

「ヴンダーカンマー ここは魅惑の博物館」



榎崎茜／著
理論社 2018年

913
カ

職場体験のため博物館へとやってきた5人の中学生。最初は知識も興味もなかったが、博物館の仕事に触れるうち、次第にその魅力に引き込まれていく。

★

「赤毛証明」



光丘真理／作
くもん出版 2020年

913
ミ

「ふつうってなに?」生まれつき茶髪の堀内めぐは、生徒手帳に『赤毛証明』の印を押されたことをきっかけに悩み考え始める。彼女が最後に出した答えは?

★

「リマ・トウジュ・リマ・トウジュ・トウジュ」



こまつあやこ／著
講談社 2018年

913
コ

帰国子女の紗弥は、先輩に誘われて短歌づくりを始める。日本の中学生生活に苦労していた紗弥は、マレーシア語で短歌を詠み、素直な気持ちを表せるようになる。

★★

「僕は上手にしゃべれない」



椎野直弥／著
ポプラ社 2017年

913
シ

吃音で悩む悠太は、自分を変えたいと放送部に入る。笑われるのは嫌だが頑張れと応援されるのも苦しい。周りの優しさに背中を押され、悠太は弁論大会に挑戦する。

★★

「君が夏を走らせる」



瀬尾まいこ／著
新潮社 2017年

913
セ

荒んだ生活を送っていた高校生の大田が、先輩の1歳の娘鈴香を預かることになった。最初は途方にくれた大田だが、食事や遊びを通して鈴香との距離を縮めていく。

★★

「with you」



濱野京子／作
くもん出版 2020年

913
ハ

家族のことで悩む中3の受験生、悠人。夜の公園で1つ年下の朱音に出会い心ひかれていく。彼女は病気の母の介護や妹の世話をする「ヤングケアラー」だった。

★★

「ある晴れた夏の朝」



小手鞠るい／著
偕成社 2018年

913
コ

原爆投下は是か非か。様々な国をルーツに持つアメリカの高校生8人が原爆肯定派と否定派に分かれ、歴史や背景などを調べながら公開討論会で意見を戦わせていく。

★★★

「アドリブ」



佐藤まどか／著
あすなろ書房 2019年

913
サ

15歳の祐司は5年前フルートに会い、国立音楽院で第一オーケストラのメンバーに選ばれるまでになった。プロになりたいのか? になれるのか? 気持ちは揺れる。

★★★

「博物館の少女 怪異研究事始め」



富安陽子／著
偕成社 2021年

913
ト

両親を亡くして上京した道具屋の娘イカルは、目利きを買われて博物館の蔵で手伝いをするようになる。先日泥棒に入られたという蔵は、怪しげな道具であふれていた。

★★★

「マレスケの虹」



森川成美／作
小峰書店 2018年

913
モ

「日本はぼくらを裏切り、アメリカはぼくらを疑っている」第二次世界大戦の真珠湾攻撃中、ハワイに暮らす日系2世のマレスケは、2つの国の狭間でゆれる。

★★★

外
国
文
学

「泥」



ルイス・サッカー／作
千葉茂樹／訳
小学館 2018年

933
サ

タマヤは友人を助けるため、立入禁止の森で乱暴者チャドの顔に泥を投げつけた。その後タマヤの手に奇妙な湿疹が広がる。翌日チャドが行方不明との知らせが届く。

★

「11番目の取引」



アリッサ・ホリングスワース／作
もりうちすみこ／訳
鈴木出版 2019年

933
ホ

アフガニスタン難民のサミは、祖父の楽器ルバーブを取り戻すために少ない持ち物を「取引」で次々と交換していく。4週間以内に700ドルという大金が必要だった。

★

「天オルーシーの計算ちがい」



ステイシー・マカナルティ／著
田中奈津子／訳
講談社 2019年

933
マ

雷に打たれて数学の天才になったルーシーは、学校の課題である社会貢献で、統計力を駆使して動物愛護に参加する。しかし、犬の引き取り手を探せない。

★

「ぼくとベルさん 友だちは発明王」



フィリップ・ロイ／著
榎田理絵／訳
PHP研究所 2017年

933
ロ

読み書きが苦手なエディは、発明家で有名なベルさんに出会い、数学の才能を認められる。そして応用数学の本で見た滑車の絵をヒントに、畑の巨大な石を動かす。

★

「ペイント」



イ・ヒョン／著
小山内園子／訳
イースト・プレス 2021年

929
イ

「ペイント」で新しい人生を手に入れることができる近未来社会は、子どもが親を選ぶ権利をもつ。必要なのは血の繋がりが愛情か。親子関係、家族のかたちを問う。

★★

「キャラメル色のわたし」



シャロン・M・ドレイパー／作
横山和江／訳
鈴木出版 2020年

933
ト

離婚した黒人の父と白人の母の家庭を1週間おきに行き来する11歳のイザベラ。家族のかたちやアイデンティティに悩みながら人種問題にも正面から向き合っていく。

★★

「ぼくがスカートをはく日」



エイミ・ポロンスキー／著
西田佳子／訳
学研プラス 2018年

933
ホ

女の子らしい服装に憧れながらも、周囲に明かすことができずにいた少年グレイソン。演劇オーディションで女神の役を勝ち取ったことから、彼の世界が動き始める。

★★

「この海を越えれば、わたしは」



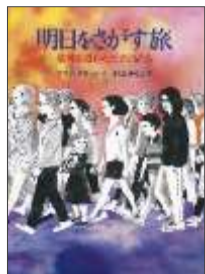
ローレン・ワーク／作
中井はるの 中井川玲子／訳
さ・え・ら書房 2019年

933
ウ

海賊が隠した宝があるというペニキース島は、かつてハンセン病患者が送られる島だった。クロウはそこから流れ着いたのではと疑われ、病原菌扱いされていた。

★★★★

「明日をさがす旅」



アラン・グラッツ／著
さくまゆみこ／訳
福音館書店 2019年

933
ク

ヨーゼフ、イサベル、マフムード。生きる時代も国も違う3人の少年少女は、戦乱や迫害から逃れるために祖国を離れる。その旅路は想像を絶する苦難の連続だった。

★★★★

「彼方の光」



シェリー・ピアソル／著
斎藤倫子／訳
偕成社 2020年

933
ヒ

黒人奴隷の少年サミュエルと親代わりの老人ハリソンが、アメリカからカナダへの逃亡を決意する。2人は自由を手にするのか。実話を元にした息もつかせぬ物語。

★★★★

「パラゴンとレインボーマシン」



ジラ・ベセル／作
三辺律子／訳
小学館 2021年

933
ヘ

水を巡って争う近未来。生まれつき色を識別できないオーデンが、伯父の作った人工知能ロボットパラゴンと出会い、伯父の死とレインボーマシンの謎を追う。

★★★★

「未来の自分に出会える古書店」



齋藤孝／著
文藝春秋 2020年

159
サ

絵が得意な兄「ゴッホくん」とサッカー少年の弟「メッシくん」は、古書店「人生堂」に通う。進路や友人関係に悩みながら、2人は読書を通じて成長していく。

科学・ノンフィクション

「わたしは大統領の奴隷だった」



ワシントン家から逃げ出した奴隷の物語
エリカ・アームストロング・ダンバー、
キャサリン・ヴァン・クリーヴ／著
渋谷弘子／訳
汐文社 2020年

289
シ

オーナは生まれた時からワシントン夫妻の奴隷だった。当時、奴隷は人ではなく財産とされていた。オーナは「結婚祝いの品物」となる前に危険な逃亡を企てる。

「なぜ世界を知るべきなのか」



池上彰／著
小学館 2021年

302
イ

日本の歴史や、中村哲医師やマラさんなど世界で活躍した人物を解説する。様々な視点から日本と世界を知ること、自分自身について知ることにつながる。

「武器ではなく命の水をおくりたい 中村哲医師の生き方」



宮田律／著
平凡社 2021年

333
ミ

アフガニスタンは長く続く戦争や干ばつにより人々が困窮している。食糧不足を解消することで平和な国にしようと支援していた日本人中村哲医師の生涯を伝える。

「チバニアン誕生」



方位磁針のN極が南をさす時代へ
岡田誠／著
ポプラ社 2021年

456
オ

2020年1月、「チバニアン」という時代が誕生した。地球の歴史(地質年代)に、初めて日本の地名が載るまでの研究チームの激闘の記録。地磁気逆転とは何か？

「ぼくの村がゾウに襲われるわけ」



岩井雪乃／著
合同出版 2017年

480
イ

欧米主導で作られたアフリカの動物保護区内では、現地の人々の生活や命よりも動物の保護の方が優先されている。自然と人間が共存するためにはどうすべきなのか。

「人生で大事なことはみんなゴリラから教わった」



山極寿一／著
家の光協会 2020年

489
ヤ

右腕のひじから先を失った幼いゴリラは、左手だけでたくましく生きる能力を身に付けた。それをさりげなく助ける大人のゴリラ。人間がゴリラから学ぶことは多い。

「クジラのおなかからプラスチック」



保坂直紀／著
旬報社 2018年

519
ホ

海岸に打ち上げられたクジラの胃から、80枚以上のプラスチックの袋が見つかった。プラスチックごみの問題が深刻化する今、私たちにできることはなんだろう。

「なんで洞窟に壁画を描いたの？」

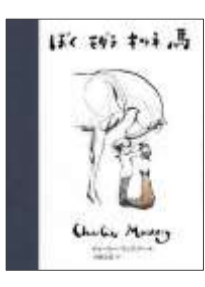


美術のはじまりを探る旅
五十嵐ジャンヌ／著
新泉社 2021年

702
イ

歴史が大好きな中1の秋山理乃。「ラスコー展」を見て、謎多き洞窟壁画の魅力にはまった理乃に、フランスまで本物の壁画を見に行く機会が訪れる。

「ぼく モグラ キツネ 馬」



チャーリー・マッケジー／著
川村元気／訳
飛鳥新社 2021年

726
マ

ひとりぼっちのぼくは森の中で動物達と出会い、語り合う。美しいイラストとともに、そっと寄り添ってくれるような心に響く優しい言葉が散りばめられている絵本。

「英語、苦手かも…?と思ったときに読む本」



デイビッド・セイン／著
河出書房新社 2019年

830
セ

英語とは「言葉」であり、世界を広げ自分を変えることもできる魔法の道具である。「どんどん間違えよう」「勉強はNG」など、楽しく使いこなす技が満載の1冊。